

## 止まり木



## 本はタイムマシン！



スポーツの秋、食欲の秋、そして読書の秋と言われる季節がやって来ました。みんなはそんな秋を満喫していますか？今回は本（読書）について、少しお話ししたいと思います。まず、なぜ読書の秋というようになったのかについて説明します。それは中国、唐時代の有名な詩人が「燈火（とうか）親しむべし」という言葉を使いました。この一節こそが、読書の秋の由来とされていて、“秋の夜は灯りをともして読書をするのにふさわしい”という意味があります。そんな「読書の秋」の考えや習慣が日本に根付いたのは、有名作家・夏目漱石が1908年に発表した小説「三四郎」の中で「燈火（とうか）親しむべし」を引用したのがきっかけとされています。その後、日本は多くの戦争に突入しますが、戦後まもない1947年に「読書週間」が開始されます。**読書の力で平和を築く目的**があり、その期間は文化の日を中心とした10月27日から11月7日に固定されました。読書週間により「読書の秋」という言葉がより強く根付いたのです。話は変わりますが、本にはすばらしい魅力がいっぱい詰まっています。

『**本はタイムマシン**』そんな言葉を目にしました。まさにその通りだと思います。本を読む楽しさを習ったらそれはタイムマシンか万能飛行機を手に入れたようなもの。本は、どんな時代のどんな国にも連れて行ってくれます。五千年前のピラミッドの王国にも、ルネサンス時代のイタリアにだって、信長や秀吉がいた戦国時代にも行くことができます。時を超え、空を超え、どこへでも行ける。いや、その時代にそこにいた人でさえ知らなかったようなことまでわかるのです。しかも本は逃げない。いつでもどこでも開きさえすればたちどころに飛んでいける。電車の中でも、学校の休み時間でも、トイレの中でも。まさに魔法のようだと思いますか。ドラえもんのどこでもドアのようなものです。自分の経験だけだと「一人分の人生」ですが、本を読むことで、無数の人の経験や知識やドラマを学ぶことができます。一生の心の友達もできるし、もう死んでしまった大偉人や大文豪と会話もできます。

「**本の発明**」はまさに人類の歴史の中で最大の発明の一つです。そんなすばらしい読書を習慣付ける3つのコツを紹介します。

**①短い作品から読書してみる**

まずは文庫本など、ページ数が少なく気軽に読める書籍や、詩集やエッセイといった作品から始めましょう。特に短編小説集などは、一つ一つの作品が短く、空いた時間にさくさく読み進めることができるので“お手軽”です。まずは、最初の一步を踏み出しましょう。

**②好きな分野を攻めてみる**

読書を習慣化するためには、自分の好きな本を読むのが一番いいでしょう。ミステリーやSFといった好きなジャンルや、自分の趣味に関連するものなど、楽しく読めるものを選択することで読書の時間が楽しくなり、無理なく継続することができます。

**③読書タイムを設定してみる**

本を読む時間をあらかじめ決めてしまうのはどうでしょうか。前もって計画を立てることで遂行しやすく、また、習慣になりやすいからです。

さあ！読書に挑戦し、時間の旅に出発しよう！

そして、文化発表会・合唱コンクールもみんなの力で大成功させましょう。